二酸化炭素(CO2)排出量計算表(その1)

別添

登録番号	品川〇〇さ◇◇◇
導入車両車名	＊＊＊×〇
導入車両型式	JA－TA

導入車両の自動車検査証の内容を記載する。

社　名：　株式会社輸送リース
（　株式会社JATA運輸　）

担当者名：　企画部　輸送　太郎

123-456-789

メールアドレス：

＊社名の(　)はリース貸渡し先を記載

(EV(電気自動車))

	導入車両の令和5年度の使用状況		導入車両の令和6年度(		備考
使用開始日	令和5年8月15日				新規登録日付もしくはそれ以降に運送事業での利用を開始した日(いずれか遅い方)の日付
導入車両の各年度の走行距離(km)①	18000	km			…対象車両の登録日から令和6年3月31日までの走行キロ(注2)を記入し、…年4月1日から令和7年3月31日までの走行キロ(注2)を記入してください
【充電容量を把握している場合】導入車両の各年度の充電容量(kWh)②	6000	kWh			…る場合のみ記載してください。把握していない場合は空欄としてください。…象車両の登録日から令和6年3月31日までの充電容量(注2)を記入してください。…4月1日から令和7年3月31日までの充電容量(注2)を記入してください
導入車両の電力量消費率(電費)③	3.00	Wh/km		/km	…公表されている電力量消費率(自動車審査基準に基づき計測された交流…/km)を記入してください。
標準車両の燃費④	8.00	km/ℓ		km/ℓ	補助対象自動車を購入したとき、代替されたディーゼル車があった場合には、そのディーゼル車の実走行燃費を、代替されるディーゼル車がなかった場合は、所有している自動車の中で、導入する補助対象自動車と同格(注4)又は同格に最も近いと思われるディーゼル車の実走行燃費を記入すること。
標準車両におけるCO2排出係数⑤	2.58	kg-CO2/ℓ		kg-CO2/ℓ	排出係数とは、燃料1ℓから何kgのCO2が排出されるかを示す係数です。 標準車両の使用する燃料がガソリンであれば2.32、軽油であれば2.58を記入してください。
電気のCO2排出係数⑥	0.000400	t-CO2/kWh		t-CO2/kWh	環境省の「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度のホームページ」(ホーム→算定・報告方法→排出係数一覧→電気事業者別排出係数関連ページ)において公表されている電気事業者別の排出係数のうち、充電に最もよく使う電気事業者の最新の基礎排出係数を記入してください。 http://ghg-santeikohyo.env.go.jp/calc
標準車両の年間CO2排出量⑦	5.81	tCO2		tCO2	①÷④×⑤÷1,000
導入車両の年間CO2排出量⑧	2.40	tCO2		tCO2	充電容量を把握している場合:②×⑥ 充電容量を把握していない場合:①×③×⑥÷1,000
CO2削減量	3.41	tCO2		tCO2	標準車両の年間CO2排出量⑦から導入車両の年間CO2排出量⑧を引くことで、年間(年度途中で導入の場合は、そこから年度末までの間)のCO2削減量を計算することができます。

自動車検査証の初年度登録年月日を記載する。

年度終了後、二酸化炭素(CO2)排出量計算書(その2)の走行キロ(km)年度計の数値を記載する。

年度終了後、二酸化炭素(CO2)排出量計算書(その2)の燃料使用量(ℓ)年度計の数値を記載する。

注1. 上記様式は、当該年度末及びその後の1年間について必ず作成し、そのコピーを交付規程様式第14事業報告書と共に提出してください。
PHVについて日常的に充電を行って使用していた場合は、HV用の計算表で計算した削減量と本表の削減量の平均値を事業報告書に記載してください。

注2. 燃費改善効果及び二酸化炭素削減効果を把握することが、当該補助金の目的であり、事業報告書を提出しない場合は、補助金の返還もあり得ます。

注3. 補助対象車両が複数の場合は、本表を台数分提出してください。

注4. 導入車両と同規模かつ同仕様の車両をいう。(例:導入車両が2トンHV塵芥車の場合2トンディーゼル塵芥車、導入車両が3トンHVボトルカーの場合は3トンディーゼルボトルカー)